

東洋大学陸上競技部
長距離部門

× オレは摂取す

鉄紺バージョン
～闘争心をとき放て～



東洋大陸上競技部長距離部門も利用する

疲労回復効果

- ▶天然マグロコラーゲン配合
- ▶驚異のアミノ酸 1本あたり 8353.8MG配合
- ▶鉄分 (FE) 1日摂取量配合

スポーツの後に、勉強で疲れた頭に
日々の疲れの栄養補給に

新商品

480円 (税込)





【実感力の秘密 その①】

アスリートの為のハードボイルドゼリー飲料
オレは摂取す

驚異のアミノ酸 1本あたり **8353.8mg** × 『**ビタミンB群**』との関係

アミノ酸の働きを高めるには、**ビタミンB群 (特にビタミンB6) は必須。**

ビタミンB6の他、V.B1、V.B2、V.B12を、
各1日摂取量を配合。



ビタミンB群
ビタミンB群 VB1, VB2, VB6, VB12
※それぞれ1日摂取量を配合
ビタミンB群は肌を美しくしてくれる美容効果や、体に脂肪が付きにくくしてくれるダイエット効果、健康な状態でいられるようにサポートしてくれる効果など、人に嬉しい色々な効果がたくさんあるんです。

【実感力の秘密 その②】

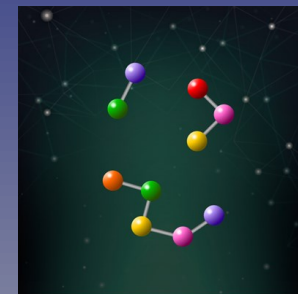
TC3000 (天然マグロ皮由来コラーゲンペプチド) のチカラ

静岡県立大学との共同研究で、TC3000 (天然由来マグロコラーゲンペプチド) には、
「筋タンパク合成の促進に優位性のある**“分岐鎖アミノ酸”**を多く含んでいることが確認」されています。



【実感力の秘密 その③】

アスリートの為のハードボイルドゼリー飲料
オレは摂取す



ペプチド

アミノ酸数値(2~20程度)が結合

タンパク質が体内へ吸収される為には、“ペプチド”状態で吸収されることに着目。

体内への吸収に特化した配合

コラーゲンとプロテインは“**ペプチド化**”したものを使用。
胃で消化・分解されたタンパク質は、“ペプチド”状態で吸収され体内へ。



【実感力の秘密 その④】

鉄分(Fe) 1日摂取量配合

食事だけでは、なかなか摂りにくい鉄分(Fe) 鉄分不足によるパフォーマンス低下をサポートします。

【東洋大学陸上競技部長距離部門 酒井監督】



2020年はコロナ禍の影響で制限の多い練習環境下でしたが、『オレは摂取す』を利用する機会を増やして、疲労を溜めない、回復を早めることに努めました。また血液性状を確認したところ、例年よりもヘモグロビンや総蛋白の値が高く貧血の選手がほとんどいませんでした。コンディションが良いことで走行距離も増した選手が多かったです。

オレは摂取す 飲み方のススメ

【「オレは摂取す」を飲むタイミング】

「オレは摂取す」を効果的よく飲んで頂くために“飲むタイミング”についてご説明致します。

<運動後30分以内>

「オレは摂取す」は、アスリートの悩みである“疲労回復”を目的に開発致しました。そのため、摂取するタイミングは「運動後30分以内(※空腹の状況)」を想定しております。※空腹時は、体内への吸収を効率的に行なわれると考えられます。成分自体も体内への吸収を考えた設計となっており、多くの皆様に、より実感して頂けるよう考え作っております。

<運動前>

「運動前」のアミノ酸の摂取が疲労回復に効果があることも研究で実証されております。
「オレは摂取す」は冷蔵庫で冷やすと、より一層美味しくお召し上がり頂けます。



オレは摂取す 飲み方のススメ

【効果を感じる摂取タイミング】

<普段の練習時>

- 運動後に飲む。⇒最も多い
- 運動前・運動後に、それぞれ飲む。
(空腹時のタイミングでの摂取をおススメします！)
- ポイント練習など、ハードな練習を行った後に飲む。

<大会時>

- レース前日に摂取(夜寝る前のタイミング)
- レース当日の朝起きてすぐに摂取(朝食前の空腹の状態で)
- レース後に摂取(リカバリー目的)



アスリートの為のハードボイルドゼリー飲料

オレは摂取す

第98回箱根駅伝 怒濤の追い上げ！！総合4位

東洋大学陸上競技部長距離部門 酒井俊幸監督



【酒井監督からのコメント】

今大会の箱根駅伝では接戦の場面で簡単に抜かれないような粘りの走りや、1秒をけずりだす走りを体現することができたと思います。

前回大会10位から、1年で表彰台の位置に戻れたのは、心理面ではエースに依存していた傾向を見直し、他人事にならずに1人1人が自覚を持って取り組めたこと、そしてレースに向けたコンディションの調整がうまくいったことが要因です。

2020年はコロナ禍の影響で制限の多い練習環境下でしたが、『オレは摂取す』を利用する機会を増やして、疲労を溜めない、回復を早めることに努めました。また血液性状を確認したところ、例年よりもヘモグロビンや総蛋白の値が高く貧血の選手がほとんどいませんでした。

コンディションが良いことで走行距離も増した選手が多くいました。2021年も引き続き活用して部員、スタッフと更に一歩、高い目標に歩んでいきます。

